資料７

地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に関する検討会議（第６回）　委員意見

共愛学園前橋国際大学学長　大森昭生

2020 年 11 月 25 日開催の第 6 回会議を欠席しなければならず、書面にて意見を申し述べますこと、ご容赦ください。

１.「地方創生に資する・・・」ということについて

今回の検討は「魅力ある地方大学」を創ることではなく、「地方創生に資する大学」を実現することに重点が置かれているのだと理解しています。

地方において魅力的な大学、魅力的な取組をしている大学は複数あります。しかし、そのことと地方創生に資する大学となっているかは別のことです。（もちろん、それが一体となっている魅力ある大学も多数あります。）地方にあっても世界的な研究によって、あるいは国際的な人材の育成によって魅力を持つ大学があることは嬉しいことですし、そういう大学が増えることも望ましいことです。ただ、今回はあくまでも「地方創生に資する」ということを念頭に置かなければならないのだと理解しています。

地方創生について、第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げられた「施策の方向性」において、大学との連関が密な部分を抽出すれば、

〇地域資源・産業を活かした地域の競争力強化
〇専門人材の確保・育成
〇働きやすい魅力的な就業環境と担い手の確保
〇若者の修学・就業による地方への定着の推進

を挙げることができるでしょう。上記の四つをまとめれば、

「産業の活性化／人材育成と雇用創出／若者の進学・就職時の定着」

であり、これらのことにどう貢献するのか、あるいは所在する県の人口ビジョンを踏まえた総合戦略のどの部分を担うのかが明確になっていることが求められると思います。

２．定員増を可能とする地域的な条件について

もし、定員増を可能とする地域を限定するのだとすれば、都道府県別の進学者に対する自県収容定員率は明らかになっており、参考になると思います。

３．定員増を可能とする取組の前提について

もし、各大学からの提案を受けて定員増の可否を検討するのだとすれば、その取組提案の前提として、いくつかの条件を設定することは検討されてよいと思います。　例えば、

〇県内、あるいは周辺地域からの進学者の割合の設定とそれを可能とする方策
〇県内、あるいは周辺地域への就職者の割合の設定とそれを可能とする方策
〇県内産業の活性化策とその結果としての雇用創出
〇新規産業の創出や企業誘致策とその結果としての雇用創出

といった地方創生に直結する施策と目標の設定や、

〇地域産業界のニーズの把握や産業界との協働による人材育成のための実質的なスキームの形成
〇地域の自治体からの支援等、地域も自分事となっている持続可能な地域連携の構築
〇地域にある他大学等の教育機関との定員増分野に関する協議の場の設置や共同教育等地域内一極集中を避けて地域教育力の低下を防ぐ方策の策定

といった、地域における理解と協働を担保する取組がなされていること等が考えられると思います。

特に、今回、研究費や事業費の配分増ということではなく（それも一つの方策だと考えますが）、定員を増やすということが論点になっております。その意味では、その増やされた定員がどう地方創生に資するのかという「ひと」の部分が重要な観点になるのではないでしょうか。

各大学が自大学の魅力創出のためだけではなく、どれだけ地方創生ということを理解し、それに覚悟をもって本気で取り組もうとされているのかを示していただくことが肝要ではないかと思います。

以上